

スポーツ推進委員意見概要(一覧)

※ 同趣旨の意見を要点整理して分類整理

※ 提出者数21名(全委員34名中)

区分欄 ○ 計画に反映 ● 事業実施過程で検討 ◇ その他

該当項目	意見分類	意見概要	区分
部活動地域移行	指導者の確保	外部指導者には一定の専門スキル、実績、指導能力が高い人を求めることになり、それに見合った報酬が必要となるため、保護者への金銭負担が増すのでは。	○ 6章 重点3
		指導者の責任範囲(事故等の場合を含む。)、報酬、保障や、学校とのコミュニケーション方法が課題。	○ 6章 重点3
		SC21役員やスポーツ推進委員は高齢者も多く、地域だけでは指導者確保が難しい。大学生や若いアスリート経験者の確保のため、大学や企業などへの協力依頼が必要。	○ 6章 重点3
		中学校の部活動の指導者確保には、小学校区、中学校区とか、校区にこだわらず、伊丹市としてどうやって子どもたちの育成をしていくかという視点が大事。	○ 6章 重点3
		外部指導者を養成・活用する事は良いが、心・技・体の向上の点から、心を知らない指導者にいきなり任せることは良くない。現指導者・外部指導者がしばらく時間をかけて養成しては。中学生は多感な時期であり、指導するには、競技技術だけでなく、教育的な部分も勉強する必要がある。	◇
		SC21は、役員・指導者不足の中、クラブの充実や、スポーツ人口の増加を目指すことで精一杯。④の「スポーツを実施する者の安全・安心の確保をする」という取組みをしながら、SC21内で部活動指導や指導者の養成をするのは厳しい。地域ボランティアでは限界がある。	◇
		指導者の活用には、十分な趣旨説明や資質把握を行い、資格の有無に捉われず、任用決定する機関が必要。	◇
		外部指導者ないしスポーツ経験者の登録制、登録バンクのようなものを作っては。また、これを、競技スポーツだけでなく生涯スポーツも含めたものとし、中学生のスポーツに限らず、広く市民が活用できるようにしてはどうか。	◇
		教師は、地域の社会人として関わるのか。教師の補助的ポジションで地域の社会人が加わる方が自然では。	◇
	運営	地域に任せるとしても、自治会、SC21だけでなく、大学、企業、スポーツ協会、高校等との連携が必要。	○ 6章 重点3
		平日は学校の先生が指導し、休日は外部コーチが指導することで、生徒が混乱しないか心配される。指導方針の違いで、生徒が混乱したり不安にならないよう、練習指導や公式大会などの基本的事項については、合わせるなど、教師と外部指導者とのコミュニケーション・連携をしっかりと行い、生徒の安定した部活動の継続を。	○ 6章 重点3
		施設利用調整をする学校開放委員会の存在は、地域移行の土壌作りのための連携が取りにくく、連携強化又は委員会自体の見直しが必要では。	●
		「地域のスポーツ団体や学校等と連携・協働を行い、体制整備を行う」とあるが、どのような体制を考えているのか。公財) いたみ文化・スポーツ財団も視野に入れてはどうか。	◇

該当項目	意見分類	意見概要	区分	
部活動地域移行	運営	外部指導者は、SC21登録団体からの派遣が想定され、メリットとして、小中一貫指導が可能になるため、小学生から中学生への移行時もスムーズで、個々の育成に大変良い。市のスポーツの水準の底上げに繋がるのでは。また、部活動において小中学校間の交流、情報交換ができる。	◇	
		小学校区単位のスポーツクラブ（現SC21）を中学校部活動の全面移行の受け皿にするには課題が多い。手順を踏んで、慎重に検討すべき。 対応策の一つの案として、中学校に新たにスポーツクラブを設置し、小学校区単位の現SCや学校と連携してはどうか。現SC21指導者の多くが保護者であり、現顧問の配置に加え、保護者からの指導者を募れば、保護者のモチベーションも維持できるのでは。	◇	
		企業等の参入も考えられるが、地域・学校間の格差が顕著になるのでは。	◇	
		部活動ではなくクラブチームに所属している中学生も増えてきている中で、学校部活動のあり方を考えていくべき。各スポーツクラブと中学校との連携を密にする必要がある。	◇	
		小学生のクラブチームとの連携を図ることも重要。	◇	
		教育の一環としての部活動であり、勝敗本位にならないように注意が必要。	◇	
		短い練習時間でも効率よく練習ができるような指導方法を検討し、子どもが楽しい時間と思えるようにしてほしい。普段学校で練習できないことを地域でやる。SC21、どこの学校でも問題はたくさんあると思う。子どもはスポーツをやりたいが、親がスポーツの大切さはわかっているにもかかわらず積極的に関わりたいくないということをよく聞く。	◇	
	移行過程	スポーツ推進委員が、伊丹市と地域のスポーツ団体等との連絡調整を担うことを期待されていることを書いてはどうか。	◇	
		SC21と部活動の考えは別ではないか。SC21は3世代で楽しむスポーツ、部活は競技スポーツだと考える。SC21はその重点施策を推進し続けてほしい。	◇	
		学校区単位の統括組織がどう立ち上がるかが不安。	◇	
	SC21の充実	会員増	壮年の会員、障がい者の会員を増やすには、専門知識を持った質の高い指導者が必要。また、そのような指導者がいることがSC21の魅力に繋がるのでは。	○ 4章 重点5 取組2
			地域住民のスポーツ人口の増加の問題である。会員数の増加に取り組むことが重要で、魅力や特徴など、各地域の特色を出す努力が必要。	○ 4章 重点5
			既に各クラブが会員増に頑張っているが結果が伴ってない現状を踏まえると、現在各クラブが行っている「魅力や特徴のPR」では、会員増につながらないのだろう。各クラブではできないPR方法など具体案の盛り込みが必要。	○ 4章 重点5
少子高齢化の現状で、高齢者はじめ誰もが気軽に参加できるためには、ニュースポーツの充実のほか、健康維持やストレス解消などの「遊びのスポーツ」の比重をもっと上げて良いのでは。			○ 4章 重点5	

該当項目	意見分類	意見概要	区分
S C 2 1 の 充 実	会員増	サッカー、野球、バレーボール等に所属している子どもたち以外が参加できる場が少ない。小学生のうちにはスポーツに限定せず、遊びながら体を上手く使えるようになっていく遊びの教室的な活動があればと思う。(鬼ごっこ、しっぽ取り、ドッジボール、縄跳びなど)	○ 4章 重点5
		「より一層のPR」の例として、各クラブでやっていることをパンフレットにしたり、既に多くのSC21で取り組んでいる市民向け学校掲示板でお知らせしたりすることを例示してはどうか。	●
		会員数増は難しく、年齢に関係なく誰もが楽しめるスポーツを考える必要がある。	●
		会員数増には、声かけが大切。 コロナが落ち着いたら、出前講座を利用して、会員向けの大きな行事をしたい。	●
		「地域住民のニーズに応じた多様なスポーツ活動」の例示として、乳幼児対象スポーツ体験、誰もが笑顔のシニアリズム体操等、日常的な取り組みも例として挙げてはどうか。	●
	運営	SC21の活性化や運営を推進するために、特別支援学校の教員とSC21会員とが連携できる合議体の設置をしては。	○ 4章 重点5
		運営体制の強化は必要だが、課題を各団体、組織で共有した後にどうするのか具体策がないと運営の強化につながらない。	○ 4章 重点5
		課題解決に向けて、「個々のSC21内で解決策を考える会議を持つ」「うまくいっているクラブとの経験を交流する機会を行政からの発案で設ける」等、体制整備を示してもらいたい。	●
		充実させたいと思っても、その方法がわからない団体もあるのでは。	●
		自己所属SC21では、校区の小学生全員に活動紹介・入会案内配布や、掲示板、自治会回覧板の活用のほか、見学会や教室の実施、自治協議会、PTAとの連携や、各種指導者研修への派遣等を行っており、これらの充実を図っていく予定。	●
		地域の公園、会館、学校をもっと活用する。また、スポーツセンター、緑ヶ丘体育館等の公共施設へのアクセスを向上させる。	●
		学校開放委員会の事務を、SC21に移行すべきでは。二重の弊害が出ているので、管理を一本化して、シンプルな体制で運用した方が良い。	●
	その他	教師がSC21に参画していないと思うが、教師は自宅近郊の中学校で地域社会人として参画しているのか。	◇
		SC21について重点施策として取り扱うことは良いことである。	◇
	D X の 推 進	推進方法	ニュースポーツの紹介などを映像でまとめると、わかりやすい。
課題		デジタル技術によるデータの活用は女性や高齢者は不得意ではないか。高齢者には浸透しづらい。	●
		自宅で一人で行うには操作の仕方がわからなくて実施できないかもというところが問題点。	●

該当項目	意見分類	意見概要	区分	
DXの推進	課題	「地域で孤立している人」はそもそもインターネットやデジタル技術に繋がっていないのでは。	●	
	環境整備	「1人でできるトレーニング動画等、コンテンツの提供」は嬉しいが、動画はYou Tubeにあふれている。そういった動画を見ながら少人数で一緒にトレーニングできるよう共同利用施設での無料Wi-Fiがあるとよい。	◇	
		リモートによる双方向的な交流を実施するためには、インフラを含めた具体的な環境整備が必要。	◇	
		SC21でDX推進に取り組むには、小学校内でのWi-Fi環境の整備が必要。現状、スポーツセンターのクラブハウスでもWi-Fi環境がなく、現状と乖離感がある。小学校は災害時の避難場所でもあり、一部でもフリーWi-Fiの環境整備をすべき。	◇	
	その他	DXの推進は、第4章 するスポーツの推進のP.23以降ではなく、第7章 伊丹ならではのスポーツの推進、重点施策4の後に入れた方が良い。	○ 7章 重点5	
		資料提示の文案の冒頭が「地域で孤立、健康上の理由、障害等」では、一部が対象の印象が強くなる。みんなが誰もが対象であるように読める表現を入れて、つなげていくのが良いのでは。	○ 7章 重点5	
		部活動の地域移行と絡めて、指導を受けたい部活動が、専門家に練習動画や試合動画を送って、動画を元に指導を得るといったDXの取り組み事例がある。市でも検討してはどうか。	●	
		スポーツにおけるDXは少し疑問がある。行政のDX化を進めてほしい。	◇	
	安全・安心 の確保	研修等	質の高い指導者の養成と活用のため、スポーツ指導者を登録制とし、あらゆる指導者への研修が必要。	○ 6章 重点1
			指導者研修の一環として、コーチングアシスタント（公認基礎資格）の取得を推進しては。	○ 6章 重点1
指導者が古い考え方や間違った指導方法をしないよう、研修会・勉強会の実施や情報提供が必要。			○ 6章 重点1	
各クラブに対応する競技団体の指導者研修会等への積極派遣			○ 6章 重点1	
指導者養成講習会を点数制にして指導者のレベルアップを図っては。			●	
指導者にかかるストレスにどう対処するかも大きな問題。指導者のメンタルヘルスが求められる所以である。			●	
相談支援		指導者による不適切な指導に対して、いつでも相談できる窓口などのセーフティネットが必要。現状の環境・体制は不十分では。	○ 6章 重点1	
その他		スポーツを実施する者の安全・安心の確保は、必要な取組である。	◇	
する	子ども	子どもたちのスポーツをする場が減らないように。習い事や高い授業料でやっていける子どもばかりではない。体験会などを催すと「楽しかった」、「体を動かしたい」という意見が多い。少しずつでもスポーツに触れる機会を増やしていくのがよい。	○ 4章 重点1	

該当項目	意見分類	意見概要	区分
する	マップ作成	スポーツマップを今すぐ作るべき。	○ 4章 重点2 7章 重点4
	女性・高齢者・ファミリー等	育児中の女性のスポーツ参加には、託児が必要。高齢者は足、膝が悪くなりスポーツから遠ざかることも多い。座ってできる100歳体操もいいが、市内にはウォーキングコースもあるので、ノルディックやポールウォーキングの促進で、日常生活も有意義になるのでは。イベントや、ポール（ノルディック）の貸出しがあるとよい。	○ 4章 重点3
	女性・高齢者・ファミリー等	スポーツをする機会、誰でも参加しやすいものがもっとあると良い。入口を広くすることが大切。	○ 4章 重点3
		地域のスポーツに子育て世代は参加しづらい。保育士等を派遣して保育をしている間に、仕事・育児から離れて思いきり体を動かせる機会が作れたら。	●
	全般	“1年間で全くスポーツを行わない市民”を対象に、校区ごとに、体験会やイベントを毎月第1・3土曜日に実施して、「だれもが、いつでも、身近なところで」実践しては。	●
ささえる	連携・協働	保健所や地区会館等とも連携・協働すべき。また団体同士の連携・協働が必要。	●
ならでは	施設の整備	スポーツの推進には、ハード面の充実が必要。現計画に「公共スポーツ施設の老朽化が顕著であり、中期的な施設整備計画」が必要とあるが、既存の施設だけではなく新たな施設の開拓も必要。伊丹市で誇れるスポーツ施設は皆無。特に阪神間の都市で芝生グラウンドが無いのは伊丹市だけ。予算の関係ですぐには難しいと思うが、様々なスポーツが可能な人工芝の多目的グラウンドを民間施設と連携して整備を。	●
		市内には他市のように大きな体育施設がない。方向性を。	●
		武庫川河川敷等がきれいに整備され、ウォーキング、ジョギング、体操、グラウンドゴルフなどを行っている人を多く見かける。猪名川河川敷も気軽にスポーツを楽しむ場になるような整備を。	◇
	アスリートとの交流	市内の企業施設や指導者との交流ができれば良いと思う。	●
	独自スポーツ	いたっボールを現在実施している学校がどのくらいあるのか。各小学校で体験の機会を作っていかなければ、これからも大会参加者が増えない。	●
その他	受講支援	スポーツ教室は受講料により参加を躊躇することがあるのではないかと。費用面の整備ができないか。	◇
	事業実施	スポンジテニスボール大会を、協会にやってもらいたい。代わりに何か他の大会が出来ると思う。	●
	計画遂行	中間見直しの骨子（素案）や現計画に意義ある意見や内容もある。少しでも実行を。	◇